

○事業所名	おれんじキッズ&児童デイサービス・アニマートちゃん		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 14日		2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2026年 1月 14日		2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 間取りがワンフロアの為、見守りやすくケガ少ない。 適宜環境調整を行い落ち着いた空間を心がけている。 感染症対策を徹底している。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の位置を工夫して、職員全員が児童全員の状況を把握する事が出来る為、児童同士のケンカやヘルプにすぐに対応出来る。 物の片付けや管理が行いやすい為、紛失などもほとんどなく、児童の忘れ物を気づきやすい。 細かい消毒殺菌を行い、空気洗浄機を常に作動させている為、事業所内感染がほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用児童の成長状況やより個々の支援に焦点を当て、環境調整や空間の活用を行っていきます。 掲示の量や方法を調整し視覚的に認知しやすい環境を模索していきます。 利用人数や年齢に応じて活動を行うフロアを適宜変更していきます。
2	<ul style="list-style-type: none"> 利用児童の年齢層が幅広い。 近隣に公園や公民館、商業施設があり活動の場が広い。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用児童同士の年齢や発達年齢の幅が広い為、異年齢の小集団にする事で自然なモデリング学習を提供できている。また、同年代の小集団では競争心、チャレンジ精神を養う事ができ、活動の幅も広い。 近隣の施設を活用する事で、IADLを自然と身に付ける事が出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の幅を広げて、どの年齢にも的確で通所意欲の湧くような工夫を行っていく。 近隣住民や施設との交流を増やし、地域との交流を図りながら、移行支援・地域支援につながるような工夫を検討していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 歴の長い職員を中心に職員間コミュニケーションが円滑である。 保護者からの信頼度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの引継ぎや送迎時、活動時の状況について都度職員間で共有し、必要に応じて丁寧に保護者へ連絡を行っている。 関係機関からの新鮮な情報も含めて共有し、出来るだけ対応に遅れないように努めている。 障害種別・特性、保護者対応、法定研修などを定期的に行い、専門性の維持に努めている。 利用児童、保護者の話に傾聴しリスペクトを持って接している。 	現在の取り組みを続けながら、地域に根強い事業所となるように対外的に発信していく方法を模索する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ワンフロアで見守りやすいが、児童の身体の成長を考えると狭い。 児童のクールダウンするスペースの確保 個別で対応するスペースの確保 	<ul style="list-style-type: none"> 動きのある活動を取り入れる事が難しい。また、児童が身体を動かして遊びたい際にも制限がかかってしまう。 パニックを起こしてしまった児童の対応時に区切る事は出来るが声が聞こえる為他児が気になってしまう。 	オモチャや収納などの配置を検討し、フロアを広く使えるように工夫を行う。本年は荷物置き場と倉庫の整理を主に行う予定。イヤマフなどの補助具を購入し対応の幅を広げる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 年齢層が幅広い事で、未就学児・低学年児童にとってはメリットも多いが、高学年児童は物足りなさを感じる事も多い。 	集団活動を行う際に高学年児童が我慢している様子が時々見られる。	高学年向きの事業所の情報を集める事で、移行支援に繋げる。また、先がある事で保護者にも安心感を与えられると思う。
3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会、家族向けプログラムなどの定期的な開催ができていない。 事故防止マニュアル等を共有されている保護者とそうでない保護者がいる。 	保護者から、他児の保護者の考え方や情報交換、コミュニティが欲しいという声が上がっている。特に進路先を考えている保護者に多い。	同法人事業所と協力し、合同の保護者会などを検討する。本事業所の卒業生などの話なども取り入れる事で見通しを持って通所できるかと思う。また、年に1度は保護者会を開催し保護者同士の繋がり場の場なども必要かと思う。